

2013年8月22日

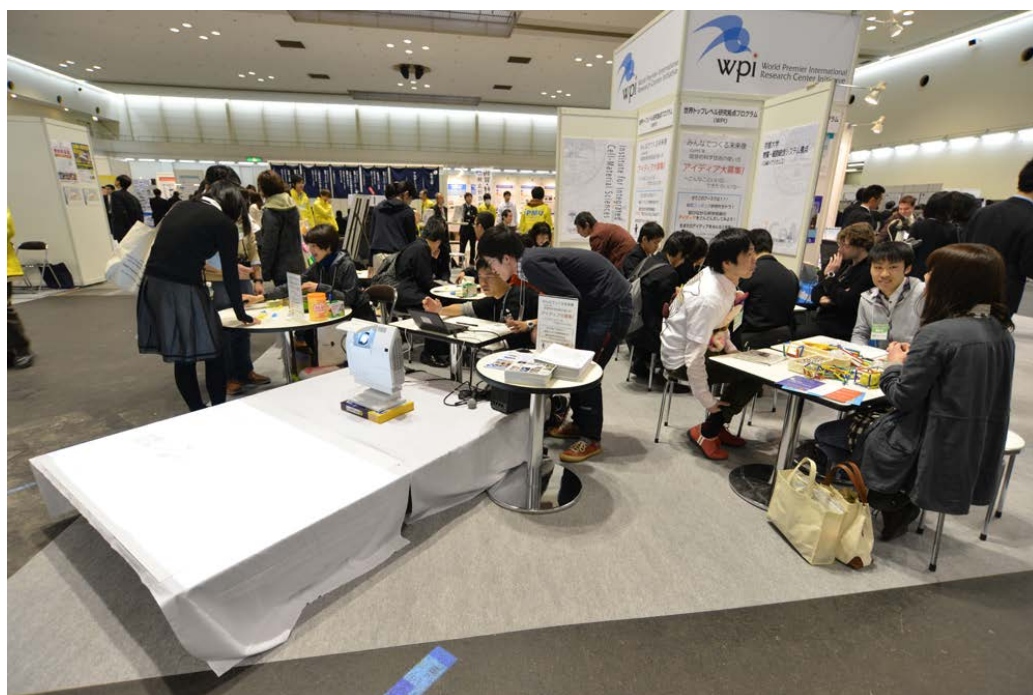
Science Communication Report

京都大学 物質—細胞統合システム拠点
科学コミュニケーショングループ (SCG)

京都大学 iCeMS、「科学・技術フェスタ」に出展

京都大学物質—細胞統合システム拠点 (iCeMS=アイセムス) は、2013年3月16-17日、京都パルスプラザにおいて開催された「科学・技術フェスタ」に、世界トップレベル研究拠点 (WPI) プログラム枠で出展しました。iCeMS ブース『みんなでつくる未来像：iCeMS 発 萌芽的科学技术の使い方アイデア大募集！ こんなこといいな、できたらいいな』には、2日間で約530名が訪れました。フェスタ全体の来場者数は2日間で延べ4,500名強でした (内閣府調べ)。

iCeMS のブースでは、「体のあらゆる細胞になる事ができ、ほぼ無限に増殖する能力を持つ胚性幹 (ES) 細胞・人工多能性幹 (iPS) 細胞」や「酸素・CO₂・メタン等を「選択的に」効率よく貯蔵・分離・変換する能力を持つ多孔性配位高分子 (PCP) 」を、多様な来場者のみなさんに楽しんでいただくために、4つの仕掛けを用意していました。



iCeMS ブース全体の様子

1. プラスティック粘土を使った、神経細胞フィギュア作り体験

お湯につけると柔らかくなって、冷めると固まるプラスチック製の粘土を使って、『神経細胞くん』をつくってもらいました。この『神経細胞くん』のデザインと抜き型制作は、堂野能伸さんとその仲間の森彩華さんです。



うまく神経細胞の形を作ることができたでしょうか？

2. マグネット玩具を使った、“新しい物質”作り体験

棒状と球状のマグネットを分子に見立てて、多孔性錯体をつくってもらいました。組み合わせの仕方を変えると、いろんなサイズのモノを閉じ込めることもできる、ということを経験していただきました。



「これは“新しい物質”かもしれない！」

3. 未来の技術を創造（想像）する、イノベ川柳

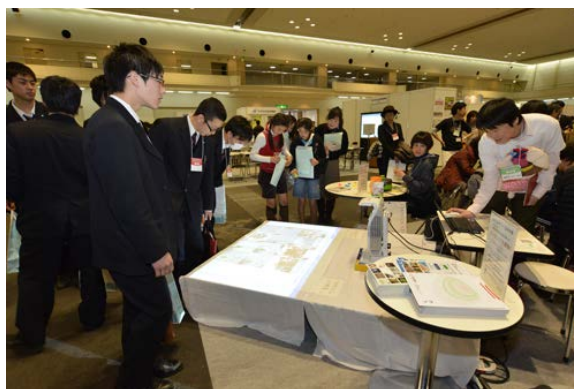
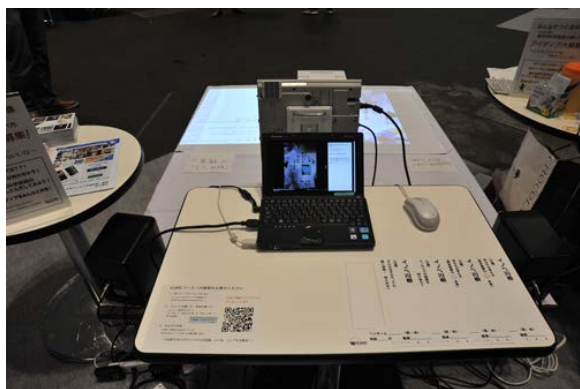
粘土やマグネットで楽しんだ後には、イノベ川柳にも挑戦していただきました。お題は3つです。「あなたが考える再生医療の◎未来」「あなたが考える再生医療の◎未来」「ナノサイズの間隙を何に使う？」



イノベ川柳、よめた？

4. 会場外の人も巻き込む、特設 Facebook ページ

会場にお越しいただけない遠方の方にも、会場の様子を伝えたい。もちろん、ブースに足を運んでいただいた方にも、帰ってからおうちでお楽しみいただきたい、ということで、イベント当日のブースの様子や来場者のみなさんの作品は、随時特設 Facebook ページにアップしていました。



会場でも Facebook ページを楽しめるように、
プロジェクターで投影していました。